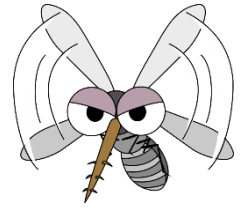


か 夏の蚊対策について

日本では、衛生面の向上や住宅構造の改善などにより、蚊が媒介する感染症は減少しています。しかし、海外では蚊が媒介する感染症の流行は依然として続いており、毎年多くの感染者が発生しています。飛行機などの輸送手段の発達により、感染症流行地域から、病原体を持った人や物資等とともに蚊の侵入が心配です。



デング熱やジカ熱など蚊が媒介する感染症を予防するためには、人が多く集まる場所や蚊の多い場所に対して、日頃から蚊の対策を行うことが重要です。国では蚊が多くなる前の6月を「夏の蚊対策広報強化月間」として、国民一人ひとりができる「夏の蚊対策」の広報・普及啓発を集中的に実施することとしています。

※「夏の蚊対策」とは、例えば次のようなことをいいます。

- 蚊が発生しないよう自宅周辺の水溜りを除去する。
- 蚊の多い場所に行くときは肌を露出しない。



除去できない水たまりは、定期的な清掃や水の交換を行いましょう。

- 流行地域への渡航者は帰国後も蚊に刺されないようにする など

子どもは蚊にさされやすい

体温が高く、代謝や呼吸が活発で二酸化炭素を比較的多く出す子どもは大人よりも蚊にさされやすいと言えます。又、刺された部分が赤く熱を持って大きくはれます。成長するにつれ反応は少なくなりますが、水泡が出たり、潰瘍になるようでしたら皮膚科を受診してください。



蚊に刺されたら・・・

すぐに虫さされ用の軟膏等（ムヒ等）を塗りましょう。冷たいぬれタオルや保冷剤で冷やすとかゆみがやわらぎ、かきこわすのを防ぎます。かきこわすと細菌感染して「とびひ」になってしまうことがあります。



サंगाこども園の「夏の蚊対策」

★ 散歩に出かける時に虫よけ剤を肌には直接スプレーせず、服や帽子、靴にスプレーしています。その虫よけ剤はレモンユーカリなど6種類の天然アロマを主成分としたもので、安全性が非常に高いものです。

(アロマスター(株)・虫対策天然スプレー「アンチ・バグ」日本製)

★ 長そで、長ズボンで出来るだけ肌の露出を少なくするようにしています。